

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 6月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	4075800468		
法人名	有限会社 リフレッシュ		
事業所名	グループホーム彩		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉麻市口春735-38	(電 話) 0948-42-6071	

評価機関名	SEO (株)福祉サービスイノベーション		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 6月 6日	評価確定日	平成 19年 7月 6日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	14 人	常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.3人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造鋼板葺 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	円
	夕食	円	円
	または1日当たり	1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 83.8 歳	最低 71 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松口循環器内科、稲築病院、やすなが内科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「笑顔と寄り添い」を最も大切に考えているとの管理者の言葉もあるように、レクリエーションと外出に積極的に取り組んでいるホームである。毎日午前中にリハビリも兼ねてレクリエーションを行う他、毎年参加している敬老会で披露する歌・劇の練習や、居間に貼る季節毎の飾り物の作成も行われており、最近では「そろそろ次のを作らない」と入居者の方から声をかけられることも多いとのこと。入居者から要望が挙げられ、床を傷めることから歩行器・杖使用禁止の史跡にも、杖にクッションをつけることで了解を得てお連れしたり、閉館間際の図書館にお連れしたりと、入居者の希望を叶えるための、諦めない細やかな対応がされている。ホームが、図書館・資料館・温泉・他福祉施設といった地域資源を活用している姿勢が先方にも理解され、外出先として良さそうな場所を教えてくださいと、職員の入場料は免除して下さる等、地域からの協力も得られるようになったとのこと。また、職員が入居者と関わる時間を多く持つようにと、職員の家事の負担を軽減するため、非常勤職員を手厚く配置したことも、前年度からの大きな試みの1つである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①ホーム内での温度差を客観的に把握しながら、より細やかな空調管理ができるよう、居室・居間に温度計を設置。②入居者主体の介護計画作成のために、センター方式を導入。③入居者が落ち着かれたこと、職員の見守りの強化により、日中は玄関を開放。④カロリー・栄養バランスに配慮した食事が提供できるよう、専用のパソコンソフトを導入。⑤口腔ケアの強化。⑥緊急時対応、感染症対策、非常災害対策等のマニュアルの整備、等。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者は、評価の過程を通して職員が自らのケアを省みることの大切さを認識し、また外部の視点が入ることが、質の改善につながると考えており、その旨、職員に伝え、今回の自己評価も、職員中心で行っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者・入居者家族(2名)・地域住民代表(公民館長)・市職員・地域ボランティアに出席いただいている。まだ開催は2回なので、挨拶・ホームの姿勢の説明に留まっており、出席者に意見をいただき、具体的にホームの取り組みにつなげるという段階は、これからであるとのこと。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>ほぼ毎日来られる方も含め、家族に頻繁に来訪いただいているので、その都度、健康状態・暮らしぶりについて報告している。ホーム便りも作成している。また、家族来訪時に、何かあったら言うてくださるよう、繰り返し声かけている。家族とは、率直に気づいたことを言っただけの関係が築けており、意見をいただいた際は、ミーティングやスタッフノートを通して職員に伝え、すぐに改善するようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に入っている。地域の敬老会にも参加しており、毎回、歌や劇を入居者と一緒披露している。月1回、ボランティアを招いて、太鼓・踊り・楽器演奏等をしていただいたり、ホームでお願いして、隣組の獅子舞を庭で舞っていただいたりもしている。隣近所の方とは、挨拶・道端の草刈・おすそわけ等の関係があり、敷地内で、近所の方と入居者がおしゃべりをされている姿も見られるとのこと。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームで定めている4カ条の理念の中に、「施設に閉じこもることなく、……地域の方々と触れ合い、皆様が地域人として生活できるようお手伝いします」を掲げており、地域と交流しながらの暮らしの支援を心がけている。日々のケアでは、特に「笑顔と寄り添い」を大切にしているとのこと。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回のミーティングで、管理者が繰り返し話しており、職員には浸透している。理念に謳っている「笑顔」の実現のために、職員には「ホームの玄関を入ったら、プライベートで何があっても笑顔で」と話し、入居者の笑顔を導き出すために、ホーム内のレクリエーションや外出に力を入れている。「寄り添い」が充分にできるようにと、非常勤職員を手厚く配置し、職員の家事の負担を軽減させ、入居者と関わる時間を多く持てるようにしたとのこと。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っている。地域の敬老会にも参加しており、毎回、歌や劇を入居者と一緒に披露している。月1回、ボランティアを招いて、太鼓・踊り・楽器演奏等をしていただいたり、ホームでお願いして、隣組の獅子舞を庭で舞っていただいたりもしている。隣近所の方とは、挨拶・道端の草刈・おすそわけ等の関係があり、敷地内で、近所の方と入居者がおしゃべりをされている姿も見られるとのこと。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者は、評価の過程を通して職員が自らのケアを省みることの大切さを認識し、また外部の視点が入ることが、質の改善につながると考えており、その旨、職員に伝え、今回の自己評価も、職員中心で行っている。前回の外部評価については、職員と一緒に「改善計画書」を作成し、指摘を受けた一つ一つについて、取り組みを行った。		(外部評価項目No.5) 2回目の会議で配布したという「グループホーム彩の取り組み」の資料は、具体的・詳細に作られており、出席者にも、ホームの考え方を理解いただけたと思われる。最初の数回は、ホームの方からの説明が主になると思われるが、回を重ねるにつれ、出席者から意見・助言をいただけるようになるとと思われる。議題の提示や助言をいただきたい課題の投げかけが具体的であればある程、出席者も意見・助言を言い易くなると思われるので、会議のテーマの設定のしかた・資料の作り方を工夫するとともに、資料を事前配布する等、運営推進会議をホーム運営に結び付けていく積極的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者・入居者家族(2名)・地域住民代表(公民館長)・市職員・地域ボランティアに出席いただいている。まだ開催は2回なので、挨拶・ホームの姿勢の説明に留まっており、出席者に意見をいただき、具体的にホームの取り組みにつなげるという段階は、これからであるとのこと。今回の評価結果も、次回ご提示し、助言・意見をいただく予定にしている。	○	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市職員に出席いただいている。管理者が市担当課の職員と知り合いであることもあり、日頃から頻りに電話をし、ホームの状況を伝えたり、感染症・ホームで行える医療行為の範囲等について相談をしたりしている。市との連携は担当課だけに留まっておらず、入居者の図書館利用・ボランティアの活用のために、地区公民館・図書館にも積極的に働きかけをしたことで、現在は、図書館やボランティアセンターの方から、最新情報のお知らせをいただいているとのこと。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前回の外部評価を踏まえ、制度に関する冊子を取り寄せ、ホームに備え付けた。職員が閲覧して勉強するとともに、入居に際して家族に説明している。ホームとして制度の説明はしているものの、改めて弁護士等から話を聞く機会は設けられていないため、充分理解いただけない家族もおられるかもしれないとのこと。	○	説明の内容・頻度は、入居者・家族の状況により、差があつて良いと思うが、基本的に全入居者家族にお話しておくことが望まれる。運営推進会議の席で、弁護士・社会福祉士等から話を聞く機会を設定するのも良いと思われる。その際は、委員でない家族や地域の方にも参加いただく形で開くと、より良いと思われる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほぼ毎日来られる方も含め、家族に頻りに来訪いただけているので、その都度、健康状態・暮らしぶりについて報告している。預かり金に関する出納簿も、定期的を確認いただいている。ホーム便りも作成している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に、何かあつたら言つてくださるよう、繰り返し声かけしている。ホームの受付窓口の他、市担当窓口を重要事項説明書に明示している。家族とは、率直に気づいたことを言つていただける関係が築けており、意見をいただいた際は、ミーティングやスタッフノートを通して職員に伝え、すぐに改善するようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者の笑顔を大切に基本姿勢は一致しながらも、それまでの経験・資格等の違いから、職員間で意見の相違が生じ、この1年、若干、職員の入れ替わりがあつたとのこと。職員の入れ替わりがあつた時は、入居者の性格・その時の心情を踏まえ、説明のしかたや寄り添い方を個別に判断し、対応している。ホームとしては、全職員を大切に考えており、個別面談をしたり、それぞれの考えを伝えたりして、退職を最小限にすることに努めているが、ホームが人と人との関係で運営されている以上、永遠に続く課題であるとの運営者・管理者の声もあり、今後の継続的取り組みが期待される。	○	職員の一人ひとりが自立し、真剣にケアに取り組むほど、意見のぶつかりあいが生じる面もあると思われ、それをチームワーク・質の改善につなげていくためには、全職員が互いを理解しあうことが重要と思われる。どのような場面設定をすると、率直に意見を言い易いか、職員の様子も見ながら検討し、取り組みを行って欲しい。
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたって、年齢・性別等での制限はしていない。職員の資格取得も積極的に支援しており、勤務調整希望に応じたり、費用補助をしたりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月2回のミーティングの席や日々のケアの場面で、入居者の人権を大切にすることを伝えている。特に方言を禁じているわけではないが、年長者に対して失礼な言動にならないよう、具体的な形で指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者は、ホームの質の向上のためには職員の研修が大切であることを強く意識しており、希望があれば、受講費の補助等、積極的に支援する方針ではあるものの、勤務スケジュールの調整には限りがあり、休みを利用して参加してもらうことの職員への負担を考え、これまでは、あまり積極的に受講を勧めることはしなかったとのこと。職員のレベルに合わせた段階的な育成の仕組みも、まだとれていない。	○	職員一人ひとりのレベルに合わせるため、また、職員に主体的に参加してもらうためにも、まずは職員自身に、年間の目標・学習計画を立ててもらい、それに合わせて、ホーム側で書籍・資料を準備したり、内部研修を開催したり、外部研修の情報を伝える等、ホームとして明確な研修体制の構築に取り組んでいくことを期待したい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会に入っている。ブロック別の毎月の会合に管理者が出席し、相互訪問や勉強会参加を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、入居者・家族と別の席を作って、両者から充分話を聞くようにしている。本人が最初から入居を希望されていることは少なく、入居初日は、寂しそうな表情をされることが多いので、出来る限り寄り添い、声かけしている。落ち着かれない様子が強い時は、無理をせず、家族にも説明し、一旦自宅に戻っていただき、日を改めて来ていただく等、入居者本位の対応をするようにしている。ホームの暮らしに馴染まれるには、他入居者と関係を築いていただくことが大切との思いから、ゲームをする際にチーム分けをして、応援したりされたりという場面を作ったりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ことわざの意味、昔ながらの遊びを教えていただいたりしている。行事には家族にも参加いただき、入居者・家族・職員が一緒になって暮らしを楽しめるようにしている。入居者がホームに馴染まれるにつれ、自身の思いや自分らしさを正直に表されるようになったとのこと、入居者間でトラブルも少し生じるようになったとのことだが、“怒”も含めて感情を率直に表現していただき、共に分かち合うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居に際し、入居者・家族と面談し、職歴・生活歴・趣味・嗜好をお聞きし、食事・外出先・自由な時間の過ごし方が入居者の希望に沿ったものになるよう、収集した情報を活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	前回の外部評価を踏まえ、センター方式を導入し、家族と話し合いをしながら入居者本位の介護計画の作成に取り組んでいるが、課題分析の視点や実際のケアは、入居者の立場に立って行われているものの、介護計画に記載されている単語・表現は、若干、介護者側からみたものになっている。また、実際に行われている地域資源を活用しての地域での暮らしの維持のケア(図書館の利用等)で、介護計画から漏れているものもある。ケア内容も個別的ではあるものの、声かけのしかたや見守りのポイント等、更に細かく落とし込んだ方が良く思われる部分も見受けられる。	○	(外部評価項目No.18・19) 現在、個人因子の情報収集までは行えているため、次のステップとして、それらの情報を活かし、入居者のストレスにも配慮した計画作成に取り組んでいって欲しい。「入居者が望んでいる暮らし方をさせていただくためには、何が必要か」「課題を解決する方法として、入居者の趣味や関心事を活かすことができないか」などの視点で課題分析を行い、専門用語や行動障害を表す言葉を、入居者自身の言葉や易しい言葉におきなおすなど、「入居者・家族が見て、嬉しい(意欲的になる)計画」とするため、表現の仕方にも工夫を行って欲しい。実際に行っている“地域での暮らし”のケアも明確に計画に表現して欲しい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画書は管理者が作成しているが、月2回ミーティングを開き、職員の気づき・意見を聞いて、計画に反映させている。状態変化があった際は、計画・援助方法の見直し・検討を行っており、日々の申し送り時にも細かい気づきの共有はしているが、「介護計画」についての話し合いは、月2回のミーティングの場で1回の開催につき1~2名について行っている状況であり、①短期目標の実施期間の明示、②毎月のケアの見直しの2点については、更なる取り組みが期待される。	○	課題・目標・ケア内容が、“いつ”“どのくらい(時間・回数・距離・頻度)”等が盛り込まれ、新人職員にもわかるような具体的なものになってくると、ケアが計画通りに行われているのか、目標が達成できているのか、モニタリングが更に客観的に行えるようになると思われる。まずは計画の更なる充実から取り組みを行い、合わせて、モニタリング・見直しを行っていく仕組みの検討も期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者の「入居者の要望は叶えたい」との言葉が示すように、定期的に寺のお参りにお連れしたり、自宅近くや知人の家にドライブにお連れしたりと、入居者の希望に合わせて個別の対応をしている。通院介助は、以前は家族にも付き添いをお願いしていたとのことだが、家族の負担を考慮し、現在はホーム側で行うようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に際して、かかりつけ医を確認し、希望があれば、入居前の医療機関を継続していただくことも可能な旨、説明している。ほとんどの入居者が、隣接の総合病院をかかりつけ医にしていたが、夜間及び認知症への対応が困難であることから、新たに、地域の医療機関に協力医療機関の依頼をし、24時間対応してもらえる体制を確保した。他、法人代表の親族である医師にも、往診・医療面の助言の協力をいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして、「重度化の際の指針」を明確にしている。法人代表の親族である医師の助言も得ながら、ホームで対応可能な範囲を確認しつつ、家族・職員と話し合いをするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が馴染まれていることから方言で話すこともあり、また、原則、下の名前に「さん」をつけて呼び出すようにしながらも、家族の意向も確認しながら入居者が好まれる「○○ちゃん」というように呼びしている方もおられるが、入居者の自尊心・プライバシーを損ねるような言動をしないよう、徹底している。個人情報保護についても、留意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者に、ある程度リズムを保って、活動的に過ごしていただくために、1日の流れ、週単位の予定(外出・買い物の日、調理の日、ゲームの日、おやつ作りの日等)を決めているが、希望されない方には強要することなく、また予定外の外出等の希望が出た時も、出来る限り希望を叶えるよう努めている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が入居者に寄り添う時間を多くしたいとの思いから、調理専門のスタッフを配置しているが、週1回「調理の日」「おやつ作りの日」を設け、入居者が調理に参加できる場面を作っている。身体機能の違いから、他の人に出来ることを自分ができないことを苦にする声が入居者から聞かれたり、希望される入居者とそれによる疲れを心配する家族の思いの調整に苦慮したりと、入居者にどのように家事に参加していただくのが良いのか悩んでいるとのことで、食事の準備・片付けは、職員が主に行っている状況ではあるが、食べたい物をお聞きし、職員も一緒に食卓を囲むなど、入居者に食事を楽しんでいただくための配慮はしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日沸かしており、希望があれば、毎日でも入っていただける。気分を変えて楽しんでいただけるよう、入浴剤を活用したり、ゆず湯・菖蒲湯をしたり、近くの温泉にお連れしたり(約2週に1回)している。異性の介助を嫌がられる方には、同性介助にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水遣り、犬の世話、繕いもの等、無理強いにならないよう入居者の思いを尊重しながら、一人ひとりに役割を持ってホームで暮らしていただけるよう、機会作りをしている。入居者自身の過去の生活習慣・家族の思い・心身状況の違いからくる入居者の微妙な心情等から、家事も含めたホーム活動への参加の促しは、これまでは少し消極的であったように思うとのことだが、楽しみごと・気晴らし作りには、入居者毎に個別対応しながら積極的に取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	管理者が、外出を積極的に行っていく方針であり、週1回、外出・買い物の日を設けている他、季節に合わせて花見等の行事も行っている。入居者から要望が挙がれば、床を傷めることから歩行器・杖使用禁止の史跡に、杖にクッションをつけることで了解を得てお連れしたり、閉館間際の図書館にお連れしたりと、入居者の希望を叶えるため、諦めない細やかな対応をしている。ホームが、図書館・資料館・温泉・他福祉施設といった地域資源を活用している姿勢が先方にも理解され、外出先として良きそうな場所を教えてくださいと、職員の入場料は免除して下さる等、地域からの協力も得られるようになったとのこと。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は戸締りするが、日中は施錠しておらず、扉自体を開け放していることも多い。近隣の方への見守りの依頼もしており、入居者が、ホームの敷地脇で近所の方と立ち話している姿もよくみられるとのこと。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	これまで、消防署の点検は2回ほど受けているが、避難訓練自体はまだ実施していなかったため、外部評価の2週後に予定しているとのこと。隣接の総合病院には、非常時の協力依頼はしているが、具体的にしていきたいことを明確にしての近所への協力依頼・合同避難訓練等はまだまだできていない。生活用水として常に浴槽に水を溜めておくことや、冷凍食品・缶詰をストックしたりはしているが、災害時を意識しての備蓄が整備できていないと言いがたい。	○	外部評価の2週後に予定している避難訓練の機会を利用し、災害時をシミュレーションし、必要な物品リストを作成し、順次整えていくことを期待したい。また、訓練に近所の方に参加いただいたり、運営推進会議で「災害対策」を議題に挙げ、地域の方からどのような支援がいただけるのか、或いはそのためにはどのような働きかけをしていくべきなのか、具体的に話し合いをしていくことが望まれる。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前回の外部評価を踏まえ、カロリー計算ができるパソコンソフトを導入し、カロリー・栄養バランスに配慮して献立を作成している。食事・水分ともに、摂取量を把握・記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	低いフェンスに囲まれた開放的な雰囲気の数地入り口から、日中は開けたままにしていることが多いという玄関を通して、居間までが見通せ、地域の人にとっては入り易く、また入居者にとっては外の風を感じながら眺めを楽しむことができる造りになっている。天井が吹き抜けになっているものの、木の梁・対面式キッチン・家庭的な家具等で、施設的でない落ち着いた空間となっている。前回の外部評価を踏まえて温湿度計を設置し、夏場はよしずも利用し、空調・光・音が、入居者にとって快適な状態を保てるよう努めている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室・和室を選んでいただけるようにしている。ホーム備え付けは整理タンスのみで、あとは自由に持ち込んでいただいている。入居者が書かれた油絵や作られたパズルを家族にお持ちいただき、居室・居室入り口・ホーム玄関等に飾っている。ホームで働きかけて各家族に書いていただいた入居者(親)への感謝状を、本人の希望で額に入れて掛けている部屋もある。		